

2018年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業
「HTLV-1 総合対策」推進におけるキャリア対策の基盤整備と適正な研究開発の推進に資する包括的評価と提言のための研究
2020年3月12日

相談状況及び相談者教育の実態調査集計結果報告書

本調査は「HTLV-1 総合対策」推進のために進められているHTLV-1 キャリア相談体制の整備や相談対応者への教育について、国内外の現状を踏まえて、より有効な手段及び内容を検討するために、HTLV-1 関連の相談窓口として指定されている全国の保健所 471 ヲ所を対象に実施しました。

調査結果について、以下の通りご報告致します。

報告日：2020年3月12日

調査票発送日：2019年12月23日

調査票回収期限：2020年1月17日

集計対象：2020年2月28日までに収集窓口（アタライフ株式会社）に到着した調査票とする。

回収状況：以下の通り

地域	配布数	回収数	回収率※
北海道	30	26	87%
東北	49	35	71%
関東甲信越	102	60	59%
東京	31	14	45%
東海北陸	59	38	64%
近畿	63	43	68%
四国中国	56	40	71%
九州	75	57	76%
沖縄	6	6	100%
総計	471	319	68%

※小数点以下四捨五入

エンデミックエリア：九州、沖縄

ノンエンデミックエリア：北海道、東北、関東甲信越、東京、東海北陸、近畿、四国中国

地域	配布数	回収数	回収率※
エンデミックエリア	81	63	78%
ノンエンデミックエリア	390	256	66%
総計	471	319	68%

1. 2010年から開始されたHTLV-1 総合対策でHTLV-1 キャリアの相談窓口として保健所が指定されている事をご存知ですか。

地域	(ア) はい	(イ) いいえ	無回答
北海道	25	1	0
東北	33	2	0
関東甲信越	55	4	1
東京	14	0	0
東海北陸	37	1	0
近畿	40	3	0
四国中国	40	0	0
九州	55	2	0
沖縄	5	1	0
総計	304	14	1

2. 保健所がHTLV-1 キャリアへの対応として相談及び検査を行えることをあなたの所属する機関(もしくは部署)で一般向けに広報(ホームページや保健所内に案内を提示する等)していますか。

以下の場合(ア)で入力。

- (イ)が選択されていたが、「母子保健の部署が「相談」についてホームページ掲載。」とコメントあり。
- 無回答で「キャリアへの対応と明記はしておらず、HTLV-1 の検査ができることは広報している。」とコメントあり。

地域	(ア) はい	(イ) いいえ	無回答
北海道	19	7	0
東北	5	30	0
関東甲信越	14	45	1
東京	5	9	0
東海北陸	13	25	0
近畿	12	31	0
四国中国	17	22	1
九州	39	17	1
沖縄	3	3	0
総計	127	189	3

3. HTLV-1 関連疾患の患者もしくはキャリアと接した、もしくは相談に対応した経験はありますか。
 経験があると回答した方は該当するものに○を付けて下さい。

(ア) 全くない

(イ) 部署内で経験している：4カ所は以下無回答

(キャリア ・ ATL ・ HAM ・ ぶどう膜炎)

(ウ) 対応したことがある：3カ所は以下無回答

(キャリア ・ ATL ・ HAM ・ ぶどう膜炎)

地域	(ア)	(イ)	(ウ)
北海道	14	8	4
東北	32	0	3
関東甲信越	52	3	5
東京	6	4	4
東海北陸	29	4	5
近畿	31	7	5
四国中国	25	7	8
九州	20	21※	18※
沖縄	1	0	5
総計	210	54※	57※
保健所数	対応経験なし 210	対応経験あり 109※	

※九州の2カ所から(イ)、(ウ)の複数回答があり。

(イ) 対応の内訳：4カ所無回答 複数回答

地域	キャリア	ATL	HAM	ぶどう膜炎
北海道	4	0	4	0
東北	0	0	0	0
関東甲信越	0	0	2	0
東京	4	0	0	0
東海北陸	3		1	0
近畿	4	3	2	1
四国中国	6	1	1	0
九州	14	2	9	0
沖縄	0	0	0	0
総計	35	6	19	1

(ウ) 対応の内訳：3カ所無回答 複数回答

地域	キャリア	ATL	HAM	ぶどう膜炎
北海道	1	0	3	0
東北	3	0	0	0
関東甲信越	5	0	1	0
東京	4	0	0	0
東海北陸	3	1	1	0
近畿	5	0	0	0
四国中国	5	2	2	0
九州	16	1	4	2
沖縄	4	0	1	0
総計	46	4	12	2

4. HTLV-1 関連の相談件数は月に何件程度ですか。

以下の事例は（イ）としています。

- 無回答で「年に1件程度。HAMの難病申請。」とコメントあり。
- （ア）が選択されており、「年度で1件あるかないか。」「年0～数件。」「年に1～2件」「2年に1人くらい」「年に2～3件程度」のコメントあり。
- （ア）、（イ）の両方が選択されており、（ア）「R1年度」、（イ）「H30、H29年度」のコメントあり。

地域	(ア) 0人	(イ) 3人未満	(ウ) 3人以上 10人未満	(エ) 10人以上	無回答
北海道	15	10	0	0	1
東北	35	0	0	0	0
関東甲信越	51	9	0	0	0
東京	10	4	0	0	0
東海北陸	33	5	0	0	0
近畿	33	10	0	0	0
四国中国	32	8	0	0	0
九州	27	29	1	0	0
沖縄	2	4	0	0	0
総計	238	79	1	0	1

※4、で（イ）、（ウ）、（エ）と回答された方は下記にお答えください。

4、で（ア）を選択し、①～④に回答頂いていたものも全て集計。

① 相談内容について下記該当するものに○を付けて下さい。（複数回答可）

	ノンエンデミック エリア	エンデミック エリア	回答数
(ア) 抗体検査の希望	33	24	57
(イ) 検査方法及び検査結果について	19	7	26
(ウ) HTLV-1 関連の病気について	20	14	34
(エ) 児への影響について	11	9	20
(オ) 授乳方法（母乳・人工乳・短期母乳等）について	7	9	16
(カ) 専門医や専門の医療機関について	13	6	19
(キ) その他※	9	7	16

※記載内容

（ノンエンデミックエリア）

- 感染経路、感染予防、健康管理について：3件
- 特定医療費（指定難病）支給認定申請、療養生活に関する相談
- 同じ病気の方と話したい
- 保健所HPで受検できると載っていたため希望
- 災害時避難行動要支援者支援制度の対象者としての状況確認、HTLV-1 関連脊髄症の方
- 日常生活の過ごし方、ヘルパー支援等へのつなぎ
- HTLV-1 のウインドウピリオドについて

（エンデミックエリア）

- 特定医療費（指定難病）支給認定申請、療養生活に関する相談：3件
- 感染経路、感染予防、健康管理
- 交流会はないか
- ウイルスの感染経路について、ウイルス感染者が多い地域について
- HAM の方の訪問相談をすることがあります。福祉制度等の指導が多い。

② 相談に対応するためにどのような資料を使用していますか。(複数回答可)

選択肢	ノンエンデミック エリア	エンデミック エリア	回答数
(ア) 厚生労働省及び関連ウェブサイト (厚生労働省・HTLV-1 情報サ ービス)	52	16	68
(イ) その他のウェブサイト	2	4	6
(ウ) パンフレット (HTLV-1 キャリ アのみなさまへ、よくわかる詳し くわかるHTLV-1、HTLV-1 キ ャリア指導の手引)	53	31	84
(エ) 研修会等で配布された資料	14	3	17
(オ) 資料がある事を知らない	1	0	1
(カ) その他※	12	6	18

※記載内容

(ノンエンデミックエリア)

- HTLV-1 キャリア相談支援 (カウンセリング) に役立つ Q&A 集 : 4 件
- HTLV-1 母子感染予防対策マニュアル : 3 件
- 成人 T 細胞白血病の予防とヒト T 細胞白血病ウイルス I 型 (HTLV-1)
- HAM と診断された患者様へ
- 週刊保健衛生ニュース
- HTLV-1 相談・検査マニュアル
- 東京都保健所における HTLV-1 抗体検査相談マニュアル
- 三重県 HTLV-1 感染予防マニュアル
- 特定感染症検査マニュアル (愛媛県作成)
- 愛媛県 HTLV-1 母子感染予防体制マニュアル

(エンデミックエリア)

- 「HTLV-1 母子感染予防対策相談対応者のための Q&A」 熊本県
- 「受け継ぐ命を守るために」 鹿児島県鹿児島県医師会作成のパンフレット : 3 件
- HTLV-1 感染対応マニュアル (平成 29 年 12 月鹿児島県)
- HTLV-1 母子感染制御対策マニュアル 厚生労働省
- HTLV-1 感染対応マニュアル

③ 相談に対応する際に、今一番必要な情報は何か。複数回答

選択肢	ノンエンデミック エリア	エンデミック エリア	回答数
(ア) 授乳方法（母乳・人工乳・短期母乳等）に関する情報	14	5	19
(イ) 検査方法や判定保留時の対応に関する情報	20	10	30
(ウ) HTLV-1 関連疾患に関する情報	26	18	44
(エ) 専門医や専門となる医療機関情報	33	11	44
(オ) HTLV-1 キャリアのコミュニティやカウンセリングに関する情報	15	7	22
(カ) その他※	4	1	5

※記載内容

(ノンエンデミックエリア)

- 対応事例がないため必要な情報が分からない
- 日常生活における注意点
- 日常生活の過ごし方、児への影響について
- 対応をしたことがないので対応事例

(エンデミックエリア)

- 感染予防

④ 保健所での相談対応を行う上での問題点・要望等ありましたらお答えください。

(ノンエンデミックエリア)

- キャリアの相談で専門医療機関が地域にない場合、ただ話を聞くだけとなる為、その場合の対応方法について研修して欲しい。
- HIV 検査や肝炎ウィルス検査受検時に受けられる検査は全て希望される場合が時々あり本来対象とはならない方への対応が難しいことがある・治療方法が確立されているものではないため、生活指導が主となるので丁寧な対応が必要
- 授乳指導については、母子保健の主体である市町村との連携が必要
- 受検可能な保健所が距離的に遠く、検査開設日も少ないため、受検困難なケースが数名いた。
- 相談がないため、対象の不安や疑問点を捉えられていない。対応のイメージがしづらい。
- 啓発が必要。
- これまで相談対応したことのある職員が全くいない。
- 相談実績が少ないこともあり、専門的な知識の不足や、医療機関へのつなげ方が明確に整理されていないため対応に苦慮する。
- 職員がHTLV-1について、相談対応するための知識等が十分でない。
- パンフレットを更新して欲しい

- 性感染症としてとらえた相談が多く、行為の違いでどの程度感染力の差があるのかなど細かく聞かれることが多いので、性感染症としての視点で記載されているような情報が欲しい。
 (エンデミックエリア)
- ほとんど相談がないため、知識や経験の蓄積が難しい。
- 保健所担当者向けの研修会等を受けていないため、適切な相談対応ができていないか不安がある。

5. ここ数年、HTLV-1 関連に関する（妊婦健診や感染、診断、治療全般）相談が増えましたか。

地域	(ア) 増えた	(イ) 増えていない
北海道	0	26
東北	0	35
関東甲信越	1	59
東京	2	12
東海北陸	0	38
近畿	0	43
四国中国	0	40
九州	5	52
沖縄	1	5
総計	9	310

6. 保健所内で HTLV-1 抗体検査を実施していますか。実施していない場合はその理由をお答えください。採血のみ実施し検査は外注という回答の保健所については、(ア)として集計。

地域	(ア) はい	(イ) いいえ
北海道	22	4
東北	5	30
関東甲信越	15	45
東京	3	11
東海北陸	5	33
近畿	11	32
四国中国	13	27
九州	41	16
沖縄	6	0
総計	121	198

実施していない場合の理由

(ノンエンデミックエリア)

- 事業化されていない。未実施。未検討。(35件)
- 検査体制が整備されていない。(22件)

- 要望、ニーズ、需要がない。相談件数が少ない。検査件数が少ないと想定される。(19件)
- 妊婦健診での検査実施のため。(16件)
- 特定の保健所、別部署での実施としている。(11件)
- 予算化されていない。(8件)
- 医療機関での実施、委託している。(7件)
- 実態が把握できておらず必要性の判断が困難(3件)
- 陽性時のフォロー体制が整っていないため
- 千葉県 HTLV-1 検査実施要領にて決められているため
- 委託検査機関で行っている
- 検査精度が低いため、偽陽性となった受検者に対して適切な説明を行うことが難しい。
- 県の体制に準ずる
- 岡山県保健福祉部健康推進課の方針
- 必要性の優先順位や費用対効果を考え現状では実施に至っていない
- 不明, (2件)、特記なし(1件)

(エンデミックエリア)

- 県の方針(2件)
- 県内で HTLV-1 抗体検査の事業がないため。
- 県内の医療機関で実施しているため。
- 保健所単位で検査実施を採択できないため。
- 検査体制がないから
- 総合的に判断して
- 県立保健所での実施となる為。
- 検査に要する需要費が高額になるため

7. HTLV-1 関連の講演や研修等がありましたか。

地域	(ア) 開催されていない	(イ) 開催された	(ウ) 開催予定がある	無回答
北海道	9	14	3	0
東北	26	9	0	0
関東甲信越	52	4	4	0
東京	13	1	0	0
東海北陸	27	9	1	1
近畿	39	4	0	0
四国中国	27	12	1	0
九州	32	23※	3※	0
沖縄	6	0	0	0
総計	231	76	12	1

※九州の1カ所から（イ）、（ウ）の複数回答があり。

① 開催された内容は何ですか。（複数回答可）

7.で（イ）、（ウ）を選択し、本項目無回答：13件

選択肢	ノンエンデミック エリア	エンデミック エリア	回答数
(ア) 授乳方法（母乳・人工乳・短期母乳等）に関する情報	36	18	54
(イ) 検査方法や判定保留時の対応に関する情報	28	8	36
(ウ) HTLV-1 関連疾患に関する情報	35	18	53
(エ) 専門医や専門となる医療機関情報	18	9	27
(オ) HTLV-1 キャリアのコミュニティやカウンセリングに関する情報	13	9	22
(カ) その他	11	3	14

(カ) その他の内容

- 母子感染予防対策、感染予防について：2件
- HTLV-1 母子感染の予防対策と相談支援～HTLV-1 母子感染対策マニュアル2017版とキャリアマザーの心理的サポート
- HTLV-1 母子感染予防のための基本的事項とキャリア妊婦への必要な配慮や指導方法について。
- HTLV-1 の現状について
- HTLV-1 対策について、HTLV-1 の基礎知識、HTLV-1 感染とキャリア対応の現状と課題
- 母子保健に関する研修会
- 疾患の基礎知識
- 統計
- 不参加のため不明：3件

② 開催された際の参加人数についてお答えください。

7.で(イ)、(ウ)を選択し、本項目無回答：24件

選択肢	ノンエンデミック エリア	エンデミック エリア	回答数
(ア) 10人以下	0	1	1
(イ) 11人～20人	2	1	3
(ウ) 21～50人	24	3	25
(エ) 51人～100人	18	9	27
(オ) 101人以上	3	4	7

③ 開催母体はどこですか。(複数回答可)

7.で(イ)、(ウ)を選択し、本項目無回答：12件

選択肢	ノンエンデミック エリア	エンデミック エリア	回答数
(ア) 所属部署(課)	1	0	1
(イ) 所属機関(保健所)	0	0	0
(ウ) 母子感染対策協議会	0	3	3
(エ) 都道府県	52	19	71
(オ) 医師会	1	4	5
(カ) その他	0	2	2

(カ) その他の内容

- 宮崎大学

8. HTLV-1 キャリアが相談に訪問された時、あなたの部署内で対応できますか。(HTLV-1 の基礎知識の情報提供、医療機関の紹介、専門医の紹介等)

(ア) 対応できない (他部署や医療機関を紹介する場合その名称をご回答ください。)

(イ) 対応できる (どのような対応が可能か下記より選択して下さい。(複数回答可))

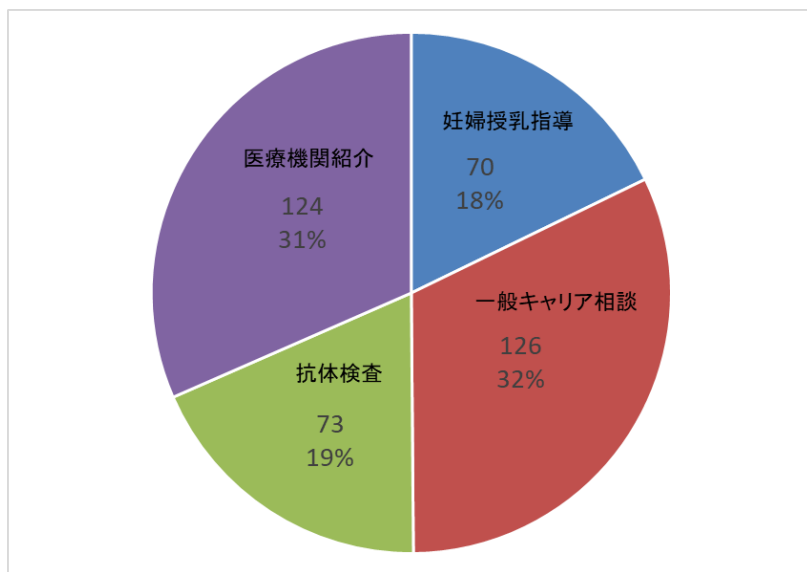
地域	(ア) 対応できない	(イ) 対応できる	無回答
北海道	0	26	0
東北	6	28	1
関東甲信越	11	49	0
東京	0	14	0
東海北陸	6	30	2
近畿	11	31	1
四国中国	2	36	2
九州	0	56※	1
沖縄	0	6	0
総計	36	276※	7

上記「(イ) 対応できる」を選択した場合の可能な対応（複数選択可）：回答保健所数 275 カ所

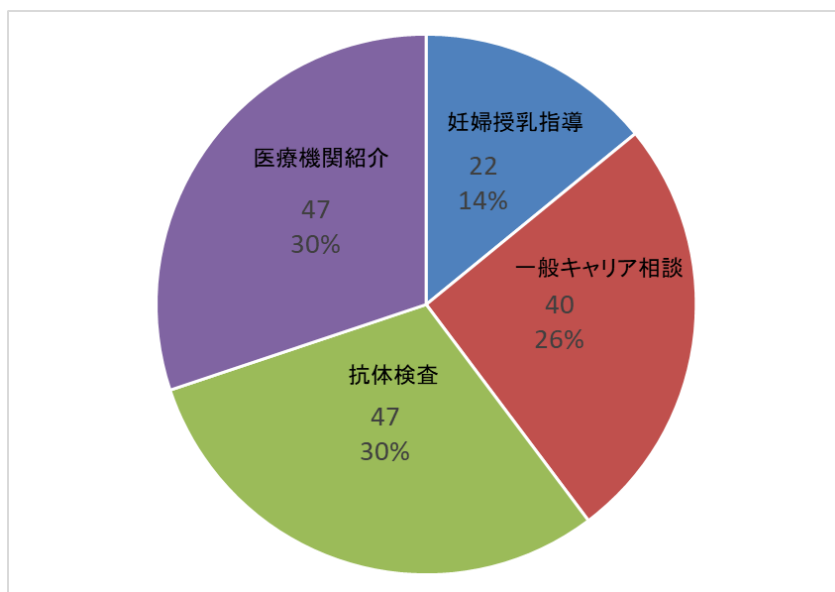
選択肢	回答数
a 妊婦授乳指導	92
b 一般キャリア相談	166
c 抗体検査	120
d 医療機関紹介	171
e その他	13

※九州の1カ所のみ上記選択肢の選択なし。

(ノンエンデミックエリア)



(エンデミックエリア)



9. HTLV-1 関連の専門家（医療機関）との連携が取れていますか。取れている場合はその専門家（医療機関名）をご回答下さい。

地域	(ア) はい	(イ) いいえ	無回答
北海道	4	22	0
東北	1	34	0
関東甲信越	6	54	0
東京	2	12	0
東海北陸	2	35	1
近畿	3	40	0
四国中国	6	33	1
九州	8	48	1
沖縄	1	5	0
総計	33	283	3

(ア) を選択した保健所の記載内容

- 砂川市立病院
- 王子総合病院
- 留萌市立病院
- 市立函館病院
- 日本海日本海総合病院、鶴岡市立荘内病院
- 佐野厚生総合病院、足利赤十字病院
- 前橋赤十字病院
- 獨協医科大学埼玉医療センター
- 総合病院国保旭中央病院
- 市内の関連医療機関へ毎年アンケートを送付し、相談があった場合に抗体検査実施期間として紹介してよいか確認している。
- 保健所の検査で陽性になった人がいれば本人と話し合っって専門医療機関へ紹介する。
- 必要時、東京大学医科学研究所附属病院のキャリア専門外来を紹介する等活用させて頂いている。
- 富山県立中央病院、富山大学附属病院 (2件)
- 滋賀医大病院
- 西日本旅客鉄道株式会社大阪鉄道病院
- 奈良県立医科大学附属病院
- 川崎医科大学附属病院
- 川崎医科大学附属病院、岡山大学病院

- 県庁担当課を通じて、山口大学医学部附属病院
- 地域の小児科、産科等のある病院と連携する
- 佐賀大学医学部附属病院（4件）
- 長崎大学病院
- 熊本大学病院
- 宮崎大学医学部附属病院
- 連携体制はあるが、実績はなし。
- 琉大附属病院

10. あなたの部署への情報提供の方法についてはどのような方法が適している、もしくは使用し易いと思いますか。（複数回答可）：回答保健所数 315カ所（4カ所無回答）

選択肢	回答数
(ア) インターネット上での情報提供	218
(イ) 相談対応の医療従事者専用のメールマガジンやウェブサイト	83
(ウ) パンフレットや教材等の紙媒体	236
(エ) 定期的な研修会等の開催	102
(オ) 相談者が相談できる窓口の設置（電話やメール、FAX等）	146

11. 現在、HTLV-1 感染を感染症法の5類感染に指定することにより、実態把握や感染予防対策の充実を図ろうという動きがあります。この動きに対してどの様に考えますか。(複数回答可)

回答保健所数 311 カ所 (8 カ所無回答)

選択肢	回答数
(ア) 感染者数の正確な把握につながり、HTLV-1 感染対策に有益である。	128
(イ) 法律で指定される事により、HTLV-1 感染に対する差別や偏見を助長する危険がある。	7
(ウ) 法律で指定しても、HTLV-1 に関する教育・啓発活動を充実し、キャリアに対する相談支援体制を整備すれば、大きな問題にはならないだろう。	108
(エ) HTLV-1 に関する教育・啓発活動を充実し、キャリアに対する相談支援体制を整備しても、差別と偏見の問題は懸念される。	34
(オ) 法律で指定される事は、保健所が HTLV-1 感染に取り組む上で有益である	34
(カ) その他	20

12. 2019年11月に東京で開催されたWHOのHTLV-1対策に関する専門家会議で、HTLV-1感染を、母子感染のみならず「性感染症」として捉え、世界的に感染対策を強化するという方向性が決まり、WHOが性感染症対策としての活動を開始しました。

HTLV-1感染を「性感染」と捉え感染予防対策を行うことについて、どの様に考えますか。(複数回答可)：回答保健所数 314 カ所 (5 カ所無回答)

選択肢	回答数
(ア) 現実に性交渉で感染する事は事実だから、その様な認識で対策を考えるべきである。	49
(イ) 実際に「性感染症」であるにしても、社会的には差別や偏見の問題を助長しかねないので、その様な取り扱いは控えるべきである。	6
(ウ) 十分な教育・啓発活動およびキャリア相談窓口の体制を整えてから、「性感染症」であることの周知を図るべきである。	95
(エ) HTLV-1感染の一部が性感染であることを周知しつつ、十分な教育・啓発活動およびキャリア相談窓口の体制の整備を早急に進めるべきである。	177
(オ) その他	8